

5 本時の目標 様子が分かる言葉を使いながらクイズを出したり答えたりする活動を通して、恥ずかしがらないでコミュニケーションを楽しむことができる。

6 本時の評価規準 相手に伝わるように、既習の言葉を使って大きな声ではっきりとクイズを出すことができる・
相手の目を見て、相手のヒントを聞き取ろうとしたり、相手のクイズに答えたりすることができる。

7 本時の展開

形態	児童の活動	JET の働きかけ	ALT の働きかけ	援助・評価
全体	1 Let's greet S: Good afternoon! S: I'm great.	大きな声で表情豊かに挨拶する。 T: Good afternoon everyone. T: How are you ?	ジェスチャーを加え挨拶する。 T: Good afternoon everyone. T: How are you ? Why ?	相手の顔を見て、大きな声で挨拶しているか。 自分の調子を表現しているか。
ペア	2 Warm up Song seven steps Review game 形容詞神経衰弱	はっきりとした発音で歌う。 子どもの中を回り、形容詞とその意味の一致を確認していく。	1～7の発音チェック&質問 子どもの中を回り、発音チェック。	リズムに乗って歌っているか。 英語の質問に答えているか。
全体	3 Model Presentation	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> She has short hair. She is very pretty. She is very young. [] He has eyeglasses. He is tall. He is very strong. [] </div>		児童活動用形容詞のカード(2人一組) 大きな声で発音しているか。 楽しんでゲームに参加しているか。
全体	4 Today's Aim 本時の課題をつかむ	ALTのクイズに児童と一緒に考える。	写真を見せ、人物あてのクイズを出す。	教師用新しい形容詞の絵カード 大きな声で繰り返し練習しているか 進んでクイズに答えようとしているか
仲間	5 Today's Points	Clear voice, Big action, Eye contact	Point についてジェスチャーで紹介	基本型: You have ~ You are ~
仲間	6 Let's Chant 形容詞や名詞を理解する 活動の仕方を理解する	形容詞の言い方と使い方を説明する ALTと一緒にデモンストレーションを行い、活動の方法を理解させる。	新しい形容詞のモデル発音。 英語への関心・表現力の高い子を中心に 見届ける。	児童活動用の絵カード(一人一組) 活動の仕方が分かり楽しんでいるか 大きな声でゲームに参加しているか 形容詞、名詞を駆使して伝えようと 努力しているか 相手の英語を聞いて推測しているか
全体	7 Let's Try 仲間とクイズゲームをする。 スクランブルに活動する。 You have ~. You are ~. I am ~.	子どもの中に入り、楽しみながら発音と用法のチェック&指導を行う。 要援助児童を中心に 見届ける。	英語への関心・表現力のある子 を中心に 見届ける。	発表や挙手で学習の振り返りを しているか 拍手で認め合う。
全体	8 Today's treasure 自分を振りかえる。 仲間の良さを認めあう。	課題のポイントに関わった良さを見つけ、名前をあげて認め広める。 Good bye everyone!	Have a nice day.	

総合的な学習の時間（英語活動）の指導と評価の案

日時：平成16年6月23日（水）

授業者：HLT 奥井玲子

ALT James

場所：北小学校5年組（4F）

1. 題材名 様子を分かりやすく伝えよう

2. 題材について

私は、この題材で単に英単語を教え込むだけではなく、その語を表現(コミュニケーション)の中で使いこなせるようになることを目的にしたいと考えている。つまり、国語で新しい漢字が出たとき「聴」という漢字をただらと書いて覚えるのではなく、「音楽を聴く」というように文中で使いこなせるように取り組ませるのと同じことである。

カードゲームをして楽しく終わることいい。でも、どのような簡単に短い表現であっても、コミュニケーション活動につなげていきたいと考える。

このように考える根底には、本校の教育目標3本柱の一つ「人もものも大切に作る心」を培っていききたいという思いがあるからである。この目標に近づく為には、人と関わりあうことが重要になる。私は、英語活動という空間を使ってお互いが不十分な英語表現力であるという条件の中で、自分の思いを伝え相手の思いをくみ取る為には、はっきりとした声で、相手の目を見て、全身で活動する(コミュニケーションする)という英語学習における基本姿勢が大切であり、そのことが相互理解につながると考えている。話題の中身を理解するだけでなく、相手を理解しようとする心が育まれることも期待しているのである。

今回は、活動的な5年生の特徴を考慮し、カードゲームやクイズ・インタビューなど体を動かしながらできる活動をできるだけ多く取り入れ楽しく英語に触れられるように仕組んでみた。また、自分の思いを伝える第一歩として基本的な表現を2つに絞り、新しい単語に限らず既習の単語を駆使して置換練習させることを通して、自分の思いを表現しようとする意欲を高めさせたいと考えている。

3. 児童の実態

学級集団としての実態

男子 名、女子 名 計 名。とにかく元気がある学級集団である。非常に人懐っこい子供たちである。男子は腕白小僧の集まりで・・・思いつき遊んで、思いつきけんかして、思いつき泣いて、思いつきりしかられて、すぐ立ち直ったの毎日である。非常に幼い。その分、女子はしっかり者が多く、対等に男子と張り合うこともできる。

当たり前のことであるが、楽しいこと、興味のあることに対しては、エンドレスであり、けじめをつけることが最大の課題である。最近、トイレのスリッパそろえと元気な挨拶、進んでお手伝いを誉められ気をよくしている子供たちである。

英語活動における実態

学級の多くの子が、英語の時間が楽しいと答えている。特に、歌やゲームは大好きである。しかし、高学年になり恥ずかしさや間違いを恐れるために消極的になっている子供もいる。そこで、日常生活の場でも、英語を使って挨拶や簡単な会話をしながら英語に親しむようにしてきた。間違いを恐れず挑戦する仲間の姿を褒め、教師自らも表情豊かに活動することで子供たちが英語の楽しさを味わってくれることを願って取り組んできた。

現在、人中8名が、英語に関わる塾に通っている。その子供の積極的な英語活動の姿がとてもよい刺激となっている。英語活動の時間だけではなく毎週金曜日の15分間のイングリッシュタイムも自分たちで進めていくことができるようになってきている。

本单元における実態

「様子を伝える言葉」として「色」「形」などについてはすでに学習してきている。また、簡単な形容詞については、20語程度知っている。カードゲームは、ほぼ全員が楽しく活動できるが、対話で使うとなるとかなりの抵抗が考えられる。失敗を恐れたり、照れがあったりして生き生き活動できない子も5～6人出てきている。

4. 指導にあたって

つきたい力

【高学年の目標】

簡単な英語で楽しい活動しながら、気持ちや考えを伝え合い、英語でのコミュニケーションを楽しむことができる。

【現在の段階】



簡単な英語で、楽しい活動しながら、聞いたり話したりするやり取りを楽しむことができる。

本時の活動について

本時の Let's Try では、いろいろな友達に進んで言葉かけをすることが大切となる。そのためには、ALT や仲間の話に耳を傾け積極的に反応する姿を大切にし価値付け広めていきたいと考えている。先にも記したように仲間との学びの中で相手を思いやる心も育てたいと考えるからである。

本時は、2人のTTで行う。2人で連携をとりながらタイムリーにより的確に子供のすばらしい姿をとらえていきたいと思う。そのために、2人の役わりを次のような視点で見していきたいと思う。

HRT：授業の進行をしながら、全体の様子を見て随時援助に入るようにする。要援助児童やその子に関わって活動する児童に対して励ましの言葉をかけ意欲化を図る。

ALT：意欲的に活動している子を認めていく。よい発音や表現の仕方に関わってよい姿を見つけ価値づけ広めていく。

「英語活動には、テンポが重要である」と聞いたことがある。児童の思考の妨げにならないよう、且つ、テンポよく活動を楽しく進めていきたいと思う。

5. 国際理解教育部会の研究テーマへのアプローチ

私は、以前より「国際理解教育」については、下記のような思いを持ち自分のできる範囲での取り組みをしてきた。このことは、勤務地や学習対象者が変わろうとも持ち続けたいと思っている。

【今年度部会テーマ】

異文化を理解し、進んでコミュニケーションしようとする姿を目指して
～誰でもできる 国際理解教育～



【個人テーマ】

児童の意識・関心を生かした国際理解教育のあり方



【研究の仮説】

「イングリッシュシャワー」ならぬ、「異文化シャワー」を浴びせ続けることで、児童・生徒の興味関心が高まり、進んで関わろうとするようになる

【研究の内容】

身近な場所を生かす・・・図書館「英語コーナー」「国際コーナー」
校内掲示板の活用

身近な人を生かす・・・ALT、英語ボランティアの活用
海外訪問経験者の活用

身近な場所に出かける・・・さまざまな施設の活用

身近な体験を生かす・・・旅行・研修を通しての体験から

小学校における「国際理解教育」のあり方については手探り状態である。しかし、楽しくお互いが分かり合えるようになるために、未熟な英語表現も大切な手段である。また、教師が積極的に外国文化かかわろうとする姿に児童生徒は憧れを持つ。そのことが意欲化につながるのである。この点を常に意識しながら部会の先生方から学んでいきたいと考える。